

# 木の日研修「森の景観」

【タイトル】 森の景観

【開催日】 2018年10月4日(木)

【開催場所】 林友ビル 6階会議室

【主催者】 森林インストラクター東京会(FIT28にわとこ会)

【講師】 斎藤馨先生 (東京大学自然環境景観学 教授)

【一文紹介】 森の景観(景観把握モデル、日本を代表する景観(国立公園、富士山、嵐山等)、サイバーフォレスト)についての講演

【公開記事】

## ■景観把握モデル

人が森を眺めるとそこに森林景観が生まれる。同じ森林であっても見る人のその時の気持ちで見え方が異なる。景観は近景、中景、遠景に大別できる。近景は人が五感(味覚・触覚・臭覚・聴覚・視覚)を使って直接把握できる環境で、圍繞景観と呼ぶ。人が視力 1.0 で認識できる範囲は 1 度とされる。平均的な広葉樹の樹冠径は 6m で、6m を視角 1 度で見るときの視距離は 360m でその範囲であれば単木を認識できる。中景はテクスチャーと呼ばれ、視点から 340m~2.1km の距離にあるもの。それ以上の距離は人間の認知限界を超えるとされ、遠景と呼ぶ。五感の中で視覚のみが近距離から遠距離までを知覚でき、人は視覚で外界の 8 割ほどを認識するといわれる。実際には人の立ち位置毎に、視点場(landscape here: こっち)と対象場(landscape there : あっち)とが存在して景観が成立するし、その評価や印象が生まれてくるのである。

## ■国立公園

国立公園は 1872 年にアメリカで発足した。人が景観を楽しむ為に色々な交通手段や施設が建設された。日本の最初の国立公園は 1934 年に日光や阿蘇など 8 箇所が指定された。名所・旧跡から自然の大風景、生態系の景観など様々な景観を楽しむことができるように国が指定し、維持・管理を行っている。国立公園は時代とともに変わっている。世界遺産は 1982 年に国立公園から 100 年遅れて、ヨーロッパで発足した。登録はヨーロッパに偏っていて、文化遺産が 8 割を占める。

## ■富士山

富士山は日本を代表する山岳景観で、富嶽三十六景など浮世絵にもあるように様々な富士が描かれている。多くは宿場町が繋がる東海道辺りからの富士が多く、それは多くの人が行き交うから、つまり多くの人の視点を代表する景色で遠景に富士山があり、近景はそれぞれの視点の周囲、つまり視点場が描かれている。なので同じ富士山の景色でも地域の特徴も描き込まれた絵として表現されている。特に景色の良い峠から見る富士山の評価が高い。これも景観を考える上で、視点つまりはより多くの人が見ていること、感じていることが評価のポイントとなる。

## ■嵐山

嵐山は絵画のような森林景観の要素を兼ね備えている。人は山の傾斜が 30 度以上あると美しいと感じるが、実際の視点場である渡月橋から嵐山山頂までの仰角は 20 度しかない。実は渡月橋から嵐山山頂までは 1km の距離があるが、サクラヤモミジが美しい近景の山までは 170m しかなく、斜面角が 30 度あるからである。また名の通り夜に月を楽しむスポットでもある。日本人にとって月は夜の景観を楽しむた

めに重要である。

#### ■サイバーフォレスト

サイバーフォレストは全国 8 箇所(富良野や秩父、志賀高原、山中湖など)にマイクとカメラを設置して、インターネットでいつでも、どこからでもライブ音と映像で森の様子を観察できるサイトで、ライブ映像や過去の様子を聞いたり見たりできる(キーワード「CF4EE」で検索できる)。近景と遠隔視覚、遠隔聴覚を楽しむことができる。「インターネットの先にある本物の自然」を掲げているが、これも森の景観と呼べるかどうかはこれからである。

#### ■最後に

普段なじみのない話題で、最初は空をつかむようで、良く分からなかったが、具体的な事例を聞くにつれて、実は色々な所に影響がおよんでいることを知り、勉強になった。今後のインストラクターとしての活動に生かしていきたい。

【報告者名】(28年)鍛冶健二郎

【参加者数】30名



講座風景その1



講座風景その2